

百人一首争奪戦熱く

玉野高校で20日、新春恒例の百人一首大会が開かれた。1年生159人が激しい札の争奪戦を繰り広げながら、伝統文化への理解を深めた。



玉野高1年生が大会 伝統文化を理解

クラスメイト同士で3人ずつの男子28チーム、女子24チームをつくり、チーム単独とクラス対抗で取った札の枚数を競った。

会場の体育館で、下の句が書かれた札を挟んで対戦相手と向き合った生徒は、教員の読み上げる歌に集中。取り札を見つけると、「はい」という声とともに素早く手を伸ばした。入学後、国語の授業や夏休みの課題などで百人一首の暗記に取り組んでおり、上の句を聞いただけで札を奪う生徒もいた。

英語担当の教員が歌の英訳を読んだり、残りの枚数が少なくなるに既出の歌を再び読んで「お手つき」を誘うなど、さまざまな

も用意され、生徒を惑のステージ発表でも優わせた。勝っており、ここも負け集計の結果、チームけられないと気合が入った。団結力の強さが同点優勝。クラス対抗勝利につながったと思では4組が栄冠に輝う」と話していた。き、ホームルーム委員 百人一首大会は、国語の福竹尚さん(16)と片語の古典の授業の一環山育吹さん(16)は「4として毎年行われてい組は球技大会や文化祭る。(正本和臣)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

↑ 激しい札の争奪戦を繰り広げる玉野高校の1年生